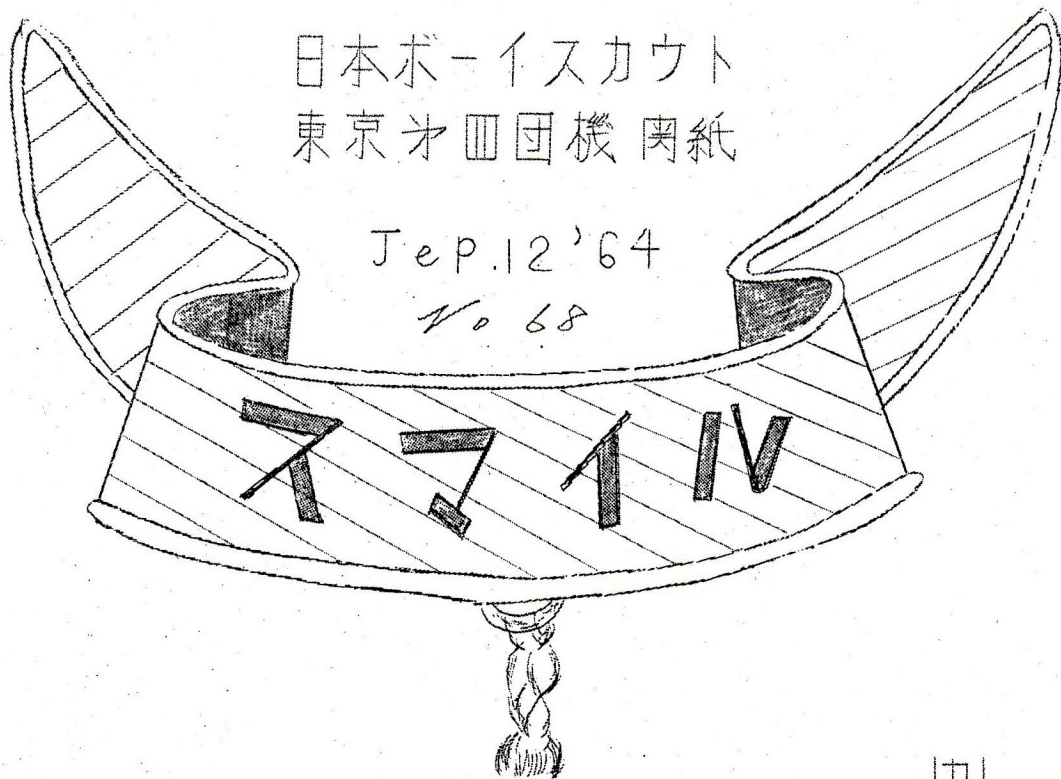


日本ボーイスカウト
東京才田団機 関紙

July 12 '64

No. 68



カブの詩

高原

カブスカウト月の輪2組

高橋たけお

高原の朝の空気が 美しい

つめたくて、とてもおいしい

ぼくは 大きく息をした

そしたら おなかの中までしみた

小鳥も 目をさまし

つめたい 牛乳のよつは山の朝が 来た

山はふかくねむり

うすづみ色のすがたに

アイスクリームのきりがかり

小さな虫も目をとじて

静かな 高原のよるが やって 来た

年少隊合宿「キヤンプ」

隊長 杉原 正

八月十二日(十五日まで)泊三日、志賀高原西谷噴温ホテルにおいて実施、カブスカウト四十六名、指導者十九名、父兄十一名の大世帯の動物の大移動であり、夏休み中遠征でありカブの健康管理の点と合宿が初めての経験である。マザト、そして白神先生、遠山田委員が参加できなくならず、前途多難の思いを持ちながら出発、八時向半のバスの予定が十時向余りかかり、ホテルに到着した時は陽が山陰に落ちかかる五時過ぎ、雨会式をすませ、入浴、夕食、そして組毎のプログラム、二日目は、カブは東館山、月の輪は姥嶺山にピクニック、つらかつたがカブにとつては楽しかったようである。キヤンプファイヤーは勢い良く火が燃えず失敗、三日目は組のプログラムを午前中にすませ、午後は隊集会での野外ゲーム、キヤンプファイヤーのための組集会、デンナークを中心として準備がすすみ、前月と見違えるようなキヤンプファイヤーとなった。左、最後の日は、帰り支度から始まり、朝食後の点検、閉会式、感謝を成して合宿地を出発した。月の輪の努力によって帰りのバスは楽しい雰囲気につつまれ、酔っカブもはく燃事教会

帰着、ロープウェイリフトが、そしてピクニック、キヤンプファイヤーすべてがカブにとつては楽しいものであった。しかし指導者にとつては次年度の足がかりとして反省すべきことも多かった。

月の輪キヤンプ
八月三十、三十一日一泊二日で三鷹御膳基督教大学において実施され、カブ十二名指導者五名、原陽二君は海米のため参加できず、他の三名は病気のため不参加、閉会式、故宮、そしてキヤンプファイヤー、就寝後、ヤカマしいたので故宮の不備の非常呼集、二日目は午前中は組毎に少年隊の課題について、食堂で昼食後、隊集会で技能を中心として指導がなされた。楽しい野宮ができたことはカブにとつてはよい経験となつたことと思つた。

少年隊キヤンプ報告

金森 勝 芳

富士のお山を目の前にみながら、箱庭の中にいるようは気持ちでキヤンプ生活をすこし、都会からはなれた喜びを十分味わいました。あいかわらわ都合人のほやみで、虫によゆく病人がぞく出、しかし習慣とはおそろしいもので、帰る頃には、さすがに石気一満、太陽のキラ／＼光る下で動きまわるとスカウトは、金魚で言うなら、水を傳た

感じがします。

新しいテントに纏る気持ち、富士山をおかむ気持ち、それそれ人によって感じ方はちがいますが、楽しかった、有意義だったという気持ちには変わりがないと思ひます。夜の暗につつまれ、ゲーム、及びファイヤーをかこむそのおこやかなムードは、スカウトなら誰でも、知り得る魅力ではないでしょうか。飯田隊長の時のキヤンプがはりがあるとするならば、今回は、味のあるキヤンプだったと言えそうです。リーダーの未熟さをささえて下さった多くの先輩、父兄各位に対し、改めて感謝いたします。

年長隊キヤンプ

関口 敦夫

今度キヤンプは高橋隊長の案で伊豆半島を東から西海岸として最南の石廊先まで移動キヤンプをすることに、なり、八月の四日(九日まで)泊六日のキヤンプに出発しました。方法は最初の二日半は班行動で泊まるころと集合時向を決めてその後キヤンプをするといふことにして始めました。まず一日目東京駅を出発熱海の先の三番までしてそこからバスで一時間半ぐらいゆられて、天城境という温泉のあるキヤンプ場に到着しその日は

このキャンプ中で一番遊べる日で各班二飯をたべてその後は温泉プールでゆつくり此からの休養をする。高橋隊長は仕事の内係で隊のプログラムから参加するといふことであるし、又班行動なのでリーダーは見えて見ぬかりをしている。

二で僕は寝冷をしたらしく下痢を起して一足先に三日目の集合場所である松崎まで行くことになった。二日目はキャンプ中で一番つらいところ天城境を出て長九郎といふ伊豆で高い山に登る。そこを登って少し前にさがつた宮林場でキャンプを張る予定である。

しかし班キャンプの長易さで各班ともだらだら、普通だった五時頃つくとも着いたのが夜の十一時から十二時でまったく年長隊としては恥かしい姿であった。途中で塩路君のあの重畳で橋が少しこわれ、落ちに事件もあった。後から聞いてみると河原で十五分の休戦が四十五分ぐらいにたりたり、何しろ各班とも反省したよつであつた。

(注) 三日、四日、五日、六日と行動報告が記さぬくいましたか、編集の手違いから全部紙上に載せることができませんので割合致しました。二におわびいたします。

二で一番学んだことは、前にも述べたように、苦を乗り越えてこそ素早く素晴らし

いものであり、二には強い交りと次への苦の心がまえが出来る。といふことです。

青年隊水泳訓練



八月二十四日青年隊は横浜磯子にある横浜プリンスホテルに於いて水泳訓練と水難救助講習会を用いた。磯子の高台にあり、ながみはとてむしろらしい環境のよい所でした。今年がキャンプが全員集まる日が無いので(全員各隊のキャンプに奉仕したので)中仕し、水泳訓練をしました。参加スカウトは十一名で、各種競技の決算である。潜水一石君(良く潜んだ賞)二、戸田君、三、渡辺君

。エレガント水泳(きれいにそして速く泳ぐ)戸田君(きれいで賞)。優込(規定)大島君(正しい泳ぎで賞)

。優込(自由)加藤君(変化優込で賞)。クロール一、岩見君(速かつたで賞)二、加藤君、三、大島君

。平泳一、岩見君、二、戸田君、三、石石君三十米歩き競争 大浜君(良く歩いたで賞)

。リレー 南口、渡辺、戸田、村田、加藤(このリレーマンニアより来た村田君は、最高の泳ぎを示したので、高校ノ一で賞を渡しました)

。その他 古矢君には、良く頑張ったで賞。渡辺君には、まろ泳げるで賞。野儀君には、陸の方が多かつたで賞。南口君には、全般的に泳げたで賞。等 各入賞者に賞品を渡し楽しく訓練をやり五時に解散しました。

五輪国旗奉仕隊訓練に参加して

青年隊 加藤 理 夫
もう皆さん新聞、テレビ等で知っての通り十月十日から二十四日までアジアで初めのオリンピックが東京で開かれます。我々ボーイ、スカウトもこれにお手伝いすることになりました。そのお手伝いとは参加各国の国旗を朝八時に掲揚する事です。それには隊まちまちの掲揚や降納の方法をオリンピックには自衛隊の方法で統一することになり我々ボーイ、スカウトが自衛隊の方々に教えていただく

ために八月二十七日から二十九日まで、練馬区にある陸上自衛隊練馬駐屯地で訓練もありました。東京をはじめ神奈川県、埼玉県長野県等のシニア以上のスカウト・リーダー百五十名が参加しました。一日目から基礎教練から初めオリエンティック期間中は、歩み方、寝まつけ、休め等全部自衛隊式でやりますので四時間も歩かされたりしました。又夜は、国旗取扱方の講義をO.C.（オリエンティック）東京大会組織委員会の略の方から授け、そしてオリエンティック奉仕の内容を説明されたりローマ大会の映画をみたりして勉強して来ました。奉仕の内容は競技場の各国旗掲揚ホール十メートルに二十五秒で掲げれば良いのですがそれに練習して、休め覚えるのが一番良いと自衛隊の方から一日八時間位の訓練を受けました。大変きびしい訓練でした。

おかげで二十九日雨も降る筈で最後の練習等は美にすばらしく揚げることも出来ました。これから小年隊の中学二年二級（予定）以上のスカウトがそれを覚えて、各競技場で参加各国の旗を掲げるのです。一生にこの様なチャンスがもう来ないでしょう。

頑張つて我々の手で、東京オリエンティックを成功させましょう。

ガールスカウト奉仕報告

今年の上級スカウトキャンプは、野外生活と常盤岩鉾見学といつ、二つの大きな目的を持って、福島県平内市にある、石森山忠教寺境内に於いて、夏休みが始まってすぐの七月二十一日より二十五日まで行われました。

スカウトの総数は十二名、リーダー五名、団委員二名、奉仕ローバースカウト二名という指導者数、それに天候にも恵まれたキャンプでした。

サイトとなった忠教寺は、常盤線平野より北方約四キロ程離れた標高二二五メートルの石森山の中腹にあり、晴れた日には、遠く、太平洋が一望の内に見え、一般客も稀な静かな大変良い場所でした。

二のキャンプでスカウト達に印象に残っているプログラムを、ここに一つ一つ取り上げて見ますと、ガールスカウトのキャンプではめったに行かない非常呼集があつた事です。聖験堂かた、ローバの野儀さん、大島さんのお二人から色々とお話を聞きながらリーダー達の練りに練った計画に、スカウト、誰一人として訓練だと思つた人はなく、自分の眼前に真実の事故発生と信んじこんで、大あわてにあわててガタガタふるえているスカウトも中にはあつたほどで、最初の非常呼集としては上出来たとリーダー一同心の底で長びきました。

最後の夜は、地元で協力して下さつた平市ボーイスカウト（平市にはG.S.がない）ロータリークラブ会員、市役所の方々を御招待して、東北地方の夜空に赤々と燃える合同キャンプファイヤーを囲み、歌の交換その他、寸劇を行つたりして、楽しい一刻をすごしたことでした。二日間の事は、将来リーダーとなるべき、上級スカウト達のよい経験になったと、私共リーダーは信じております。B.S.とちがってキャンプサイトを何処に決定するか、今後に残るG.S.に対する大きな課題であると思ひ、それにキャンプ地元の協力のいかに大切であるかが良く身にしみたことでした。



発行 昭和三十九年九月十二日発行
 発行人 田中正男
 編集人 加藤理夫
 発行所 東京都港区立坂霊南坂町一四
 霊南坂教会内
 日本ボーイスカウト東京第四団

キャンピングの反省

団委員長 田中正男

私達東京や四団の年度は毎年九月に始まり九月に終了するようになっていた。従って、各隊の年間プログラムもそのように紐まわって一年間のしめく、りを夏のキャンピングで行うようになっていた。

さて、今夏の各隊のキャンピング生活をふりかえってみてどうであったろう。例年なら私もカブのキャンピング等の見学に御邪魔したのだが今夏は公私共に忙しく、ついにどの隊のキャンピングも行くことが出来なかった。ボーイスカウトのキャンピングが学校等で行うキャンピングと異なることはいままでもないことであるが、若し、学校のキャンピングと同じように全く用意されたつちに生活したならばこれは失敗といつてもよいだろう。スカウトのキャンピングが学校のキャンピングや教会の修養キャンプと異なる点は班別制度の活用という点であり、大人の力を借りずに少年達自身で楽しいキャンピング生活を作り出していくという点である。自分達で班を作り、自分達でよいリーダーを送り出し、自ら、一人一人がよい隊を作るための努力をしていくところに東京や四団の発展の基盤があると思う。新しい年度を迎えるにあたって夏休みのキャンピングを反省し、四団の発展のため

に努力してもらいたい。

お知らせ

年少隊

長野県志賀高原、西発唯温泉にて八月十二日より十五日まで合宿を行った。
 参加スカウト四十三名、リーダー十三名、父兄十一名、全員無事に十五日九時半、教会で解散した。

少年隊

七月二十七日（三十一日）近野県は富士のふもと朝霧高原においてリーダー以下四十名もの参加によってせい大に終りました。雨もなく、訓練にはもってこいでした。

年長隊

伊豆半島にて八月四日（九日）まで移動のキャンピング。参加スカウトは十三名、リーダー四名、リーダーの方が少しはばてて、スカウトの方が元気でおもしろいキャンピングであった。

青年隊

○ 日の丸の旗ありますか？

青年隊では資金獲得の一環として、オリオンピックには各家庭に日の丸を掲げよう、を合言葉として日の丸のない家庭を叩く、なっている。御家庭に日の丸を掲げておられます。とくに港区は五輪マークがあり、各団大使が通りますのでぜひ掲げて下さい。旗竿、冠頭等もあります。申し書及び申込は青年隊か、関口、渡辺西君の所にありますのでどうかよろしく御協力下さい。値段その他は別紙にて。

○ 夏休みサヨナラ、キャンピングファイヤー
 ◇ 九月五日午後五時半より、教会の庭で恒例の四団合同さよならキャンピングファイヤーが南かれます。

◇ 九月六日、午後一時より築地の本願寺庭にてオリオンピック国旗奉仕隊のやり目訓練が南かれます。この訓練に参加資格者は各隊リーダーと少年隊グリーンパーです。

◇ 十月十日（二十四日、オリオンピック国旗掲揚の奉仕があります。この奉仕に参加資格者は、中学二年二級（予定）までのスカウトです。

○ ナイト・サイクリング
 今月、四団合同キャンプファイヤー終了後九時教会出発して、神奈川県鎌倉海岸一帯のナイトサイクリングを南まします。